

東日本大震災ボランティア 報告集



南蒲生浄化センターにて

平成 28 年 8 月 23 日～24 日
仙台市東部地区（宮城野区・若林区）を訪ねて

埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校

〒350-2223 埼玉県鶴ヶ島市高倉 946-1
Tel. 049-286-7501 Fax. 049-279-1010
HP：<http://www.tseifu-h.spec.ed.jp/>

せんだい 3.11 メモリアル交流館



南蒲生集会所での町内会の方々からのお話



(株) みちさき



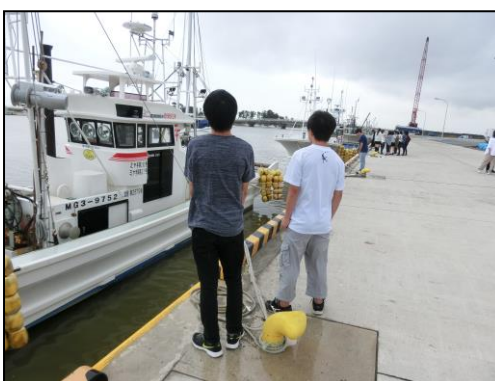
南蒲生浄化センター



中野五丁目津波避難タワー



旧仙台市立荒浜小学校・関上港



南蒲生町内会長・松岡和雄様宅での交流会



宮城野区岡田西町公園仮設住宅



井土生産組合での農業ボランティア



目次

口絵	2
校長あいさつ	8
実施までの流れ	9
「しおり」より（一部抜粋）	10
参加生徒感想文	12
おわりに	31

＊ 東日本大震災ボランティア当日の生徒の活動については，本校 HP（トップページ＞「清風ニュース」）でご覧頂けます。

<http://www.tseifu-h.spec.ed.jp/>



本校主催「東日本大震災ボランティア」は，埼玉県教育委員会・平成 28 年度「ボランティアチャレンジプロジェクト」推進校指定を受けて実施したものであり，バス借り上げ料の一部及び消耗品費の補助を受けました。また，本校 PTA・後援会からも補助を受けました。深く感謝申し上げます。

東日本大震災ボランティアを終えて

校長 根本 文昭

昨年度、本校は2年次の修学旅行に初めて「震災学習」を採り入れた。平成27年10月28日から3泊4日の初日に宮城県の被災地を訪問した。その成果は、修学旅行の事前・事中・事後指導を通じて、様々な成果を挙げ、生徒を大きく変容させた。

事前指導では、調べ学習方法やオブジェの制作、被災した大学生を中心に3名を招聘してのパネルディスカッション、取材の際のマナーの指導等きめ細かい指導を行った。実地では、2～3名で編成した班が被害を受けた仙台、多賀城、石巻、松島、南三陸の五つのエリアの57の役所や事業所を訪問し、震災の様子や復興状況を聞き取る調査を行った。そして、事後指導では、報告会やプロジェクションマッピング制作など震災学習で体験し感じたことを素直に感じとったことを丁寧にまとめた。この結果、生徒は自分の行動に責任を持ち、主体的かつ積極的に行動するなど実施前・後で生徒は大きく成長した。

これらの実績を踏まえ、さらに防災意識の涵養を図り、生徒の主体性やコミュニケーション能力を一層育成するために、本年度は埼玉県教育委員会の事業である「ボランティアチャレンジ」プログラムに手を挙げ、指定された。

そのプログラムの一環として、1年次では1学期末に鶴ヶ島市女性センター「ハーモニー」のホールを借りして、震災学習を実施した。生徒は3.11の震災時には小学校4年生で、震災当時の災害等の様子は多少記憶に残っていたが、多くの生徒の心に衝撃を呼び起こし、今後予想される震災に対する心構えや防災意識が高まった。

そこで、さらに、夏休みの二日間にわたり、全年次生から参加希望をとり、「東日本大震災ボランティア」を実施した。1年次生3名、2年次生3名、3年次生16名の計22名が参加し、仙台市東部地域で震災ボランティア活動を実施した。

活動の目的を二つに設定した。一つは、「仙台市東部地域の現状と未来について」；「知る」ことと、二つ目は「今、我々ができることは何か」；「行動する」ことである。この二つの目的を達成するために、二日間という短い期間だったが、盛りだくさんの活動を実施した。震災当時や現在の復興状況を見学し、実際に農業ボランティアを体験した。さらに、地域の人々と交流会を実施し、被災者の何気ない声にも耳を傾けることができた。

今回の震災ボランティアの報告については、2学期始業式後に全校生徒の前で参加者の1年次生がパワーポイントを使用して発表した。被災地で「何をやって」「どう感じ」「今後どうすべきか」をしっかりと全校生徒の前で発表できた。発表が終わると、大きな拍手が起きた。今回のボランティアに参加した生徒はもちろん、話を聞いていた多くの生徒の心を揺さぶったようだ。今回の事業も生徒にとって大変意義深いものとなった。

結びに、今回の東日本大震災ボランティア活動の実施にあたり、多大なるご理解とご協力を賜りました関係の皆様方には改めまして深く感謝申し上げます。ありがとうございました。また、地域の皆様の一日も早い復興と更なるご発展を祈念申し上げます。

実施までの流れ

月	できごと
4 月	■ 仙台市宮城野区南蒲生地区在住の芳賀正様に現地コーディネータを依頼 ■ 平成 28 年度「ボランティアチャレンジプロジェクト」推進校指定の申請
5 月	■ 平成 28 年度「ボランティアチャレンジプロジェクト」推進校指定の決定（埼玉県教育委員会） ■ 東日本大震災ボランティア参加生徒募集開始
6 月	■ 東日本大震災ボランティア参加生徒確定
7 月	■ 参加生徒対象事前学習会（7/20）
8 月	■ 事前現地打ち合わせ（8/2・3） ■ 参加生徒対象直前学習会（8/13） ■ 直前現地打ち合わせ（8/20） ■ 東日本大震災ボランティア実施（8/23・24） ■ 震災ボランティア壁新聞作成（8/26～31）
9 月	■ 震災ボランティア報告会（9/1） ■ 震災ボランティア報告集作成

「しおり」より（一部抜粋）

- 役 員 団長 古谷 萌永，副団長 渡辺 美帆
- 引 率 加藤 一郎，鯉沼 詩織
- コーディネータ 芳賀 正（仙台市宮城野区南蒲生在住）

- 交 通 中型貸切観光バス

- 宿 泊 （男子）仙台市宮城野区岡田西町公園応急仮設住宅
（女子）南蒲生集会所

- 服 装 第1日目：私服
＊ 「見学させて頂く」ことをイメージして服装を選択
 - ・ 男子：短パン・サンダル不可
 - ・ 女子：スカート・サンダル不可
 第2日目：汚れてもよい服・運動靴
＊ 「農業」をするので，長袖シャツ・長ズボン・帽子

- 持ち物 しおり，事前学習課題，着替え，帽子，洗面用具，1日目の昼食，保険証，小遣い

- 参加者・引率者一覧

	年組番	氏名	性別		年組番	氏名	性別
1	1125	千田 美穂	女	13	3524	嶋田 香織	女
2	1618	大山 千奈	女	14	3535	渡辺 美帆	女
3	1631	牧野 未結	女	15	3601	今関 泰隆	男
4	2210	榊原 悠	男	16	3602	栗澤 将崇	男
5	2214	畑中 貴光	男	17	3603	小林 光希	男
6	2411	松田 峻弥	男	18	3604	嵯峨 自由	男
7	3130	古谷 萌永	女	19	3606	菅沼 柊平	男
8	3226	関口 玲菜	女	20	3615	渡辺 伸	男
9	3316	和島 武尊	男	21	3619	小川 ゆうか	女
10	3422	関口 瑞希	女	22	3627	角田 梨奈	女
11	3424	中島 琉華	女	23	引率	加藤 一郎	男
12	3433	三戸 朱理	女	24	引率	鯉沼 詩織	女

● 日 程

第1日目：8月23日（水）

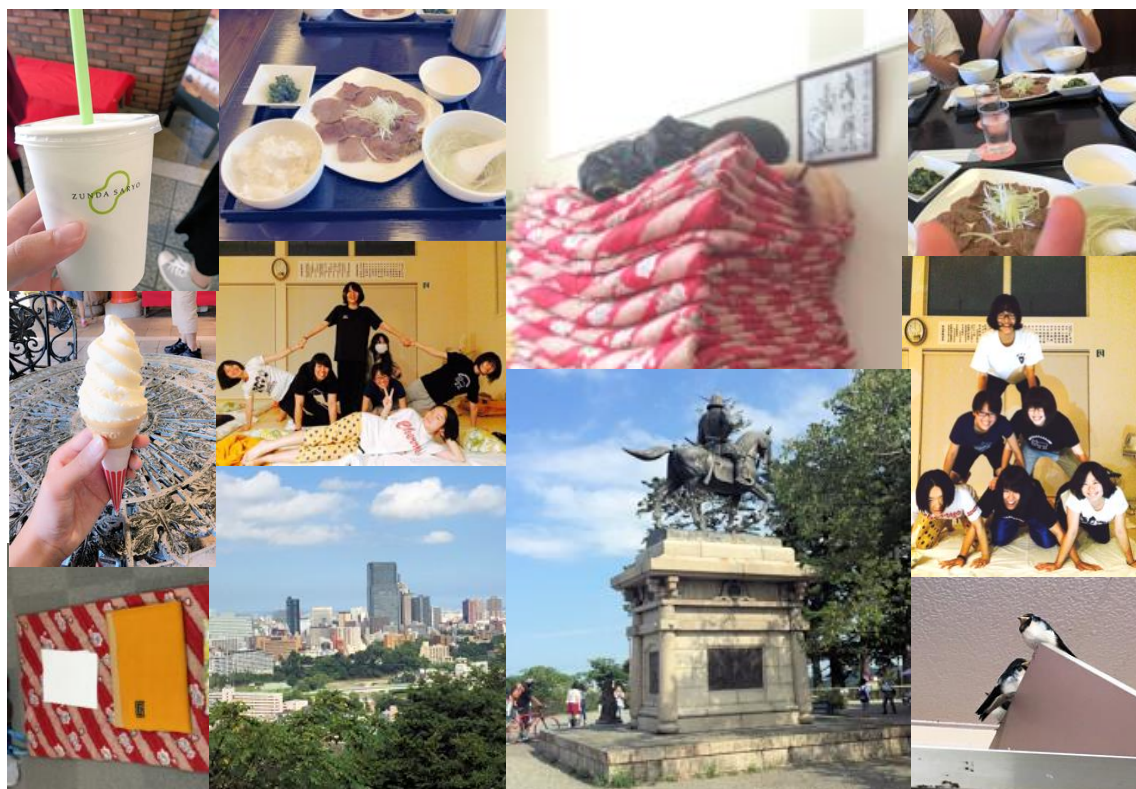
7：30	学校集合・点呼
7：40	学校出発 ＊ バス車中で昼食
12：30	仙台市到着
13：00～13：30	南蒲生地区の震災・復興状況の説明 （仙台市宮城野区南蒲生町内会様）
13：40～14：10	農業法人による新しい農業の見学 （株式会社みちさき様）
14：15～15：15	下水処理場の震災・復興状況の見学 （南蒲生浄化センター様）
15：30～16：00	中野五丁目津波避難タワーの見学 （仙台市危機管理室防災計画課様）
16：30～17：30	震災遺構と嵩上げ（かさあげ）工事の見学 ・ 旧仙台市立荒浜小学校 ・ 名取市閑上（なとりしゅりあげ）地区
18：00～19：30	南蒲生地区の方々との夕食・交流会 （仙台市宮城野区南蒲生町内会様）
20：00～21：00	入浴 （大江戸温泉物語仙台コロナの湯）
21：20～22：00	ミーティング
22：00～23：00	各自でしおり記入・自由時間
23：00	就寝

第2日目：8月24日（木）

6：00	起床
6：30～ 7：00	仮設住宅の掃除・片付け
7：00	朝食……弁当を揃って食べる
8：00	仮設住宅出発
8：30～11：00	農業ボランティア （井土生産組合様）
11：30～12：30	入浴 （大江戸温泉物語仙台コロナの湯）
12：50～13：30	昼食……牛タン定食を揃って食べる （伊達の牛たん本舗・六丁の目東インター店）
14：20～15：20	青葉山公園見学……伊達政宗像見学・土産購入
15：30	仙台市出発
19：30	学校到着（予定）



参加生徒感想文



このページの写真は、すべて生徒が撮影したものです。

仙台へ行って

1年1組 千田 美穂

ボランティア1日目、私は仙台市に着き、外の景色を見て、驚きました。震災当時、ニュースで見た映像のようなものはなく、かなり復興していたからです。これほど回復しているならば、きっとここに住んでいる人々も元気に日々を過ごしているだろうと思っていました。

最初、南蒲生の人々の笑顔を見て安心しました。しかし、当時の話をして下さっている時の表情や声色で、「いくら月日経っても、つらいものはつらいのだな」と実感しました。そして、下水処理場で見た約 50cm へこんだ壁、割れた窓、津波によって廃校となった荒浜小学校とその周辺の荒れ果てた野原、どれもこれも、心の奥に刺さる程、衝撃を受けました。

ボランティア二日目、井土生産組合に行ってネギ畑落ちている砂利拾いの手伝いをさせていただきました。この畑も津波によって被害を受けました。私達が拾った砂利は、500 円玉の大きさのものから顔と同じくらいの大きさのものまでありました。以前は、機械で畑を耕している時に砂利が機械に引っかかり、動かなくなってしまう程の巨大な砂利があったことも教えて下さいました。私の家の周りには畑がたくさんありますが、あれほどたくさんの石が落ちている畑は見たことがありませんでした。そんな中、元気にまっすぐ育っているネギを見て、少し感動しました。

二日間を通して感じたことは三つあります。一つ目は津波の恐ろしさです。前からニュースや写真で怖いなと思っていましたが、「少しがんばれば逃げられそう」と安易に考えていました。しかし、へこんだ壁や荒浜小学校などを見て、その考えは甘く、とても失礼だと身にしみて感じました。「津波をなめてはいけない」、そう言っているように見えました。

二つ目は、前向きな姿勢の大切さです。たくさんの人が亡くなり、家が流されるといったどうしようもない中、前を向き進んだ事で復興が進み、地域の人々は元気に過ごしています。前を向けば「未来は明るい」という事がわかりました。

三つ目は、知る事の大切さです。話を聞いていると、みんな「まさか、ここまで来るとは思っていなかった」とおっしゃっていましたが、過去のデータを紐解くと、400 年間隔で大津波が来ることが震災前に明らかにされていたそうです。このことがもっと早く、そして広く知れ渡っていれば、被害も少なかったはずだと思います。

今回のボランティアは、ふだん体験する事の出来ないものばかりでした。まだまだやることが多い中、私達にかけがえのない思い出を下さった東北のみなさまに心より感謝します。ありがとうございました。

仙台ボランティアを通して思ったこと

1年6組 大山 千奈

私は二日間、仙台に行ってきたたくさんのことを学びました。私は実際に被災地に行ったことはありません。そして、埼玉県で暮らす私にとって目に見える被害は少なく、テレビなどで津波の様子などを見たほかに、祖父が買ってきた東日本大震災の本と一緒に見ただけで津波の恐ろしさを知った気でいました。

ところが実際に行ってみると、津波でへこんだコンクリートの壁を見たり、地域の方々の話を聞いたりして、私はとても悲しくなりました。また、想像を超える大きな被害にあっていることを知り、改めて震災の恐ろしさ理解することができました。このような困難の中でも、前を向いて全力でがんばっている方々を見て感動しました。そして津波対策も徐々に進んでおり、見学をした津波避難タワーでは、避難がしやすいような工夫、例えばお年寄りの方や車椅子の方でも避難しやすいようにスロープになっていたり、一時的に避難できるようになっていたりして、これなら安心だと思いました。

そして、この日の夕食は、南蒲生町内会の方々が私たちのためにバーベキューでもてなして下さいました。お肉のほかにも、みちさきでとれた新鮮な野菜、そして名物の手作りずんだ餅もありました。とてもおいしかったです。心が温かくなりました。

二日目は畑の砂利拾いをしました。畑には大小さまざまな大きさの石がたくさんあり、拾ってもなかなか減らずにとっても大変でした。集めた石を見ると、岩のようなとても大きな石や 500 円玉くらいの小さな石まであり、びっくりしました。でもその中で元気に育っていく野菜を見て、大切に育てられているのだなと感動しました。

二日間を通して、当時のことや現地の方々の温かさを知ることができて良かったです。これからもさらなる復興に向けてがんばってほしいと思いました。

東日本大震災ボランティアの感想 一宮城県仙台市南蒲生一

1 年 6 組 牧野 未結

私は、以前から震災のボランティアに行きたいと思っていたところ、担任の先生からの薦めもあり、今回、震災の場所宮城県の仙台市へ行くことができました。私は震災の復興はほぼほぼ終わっていると思っていました。しかし実際に行ってみると、まだ復興が終わっていないところがたくさんあって驚きました。そして、地域の方々から地震と津波の状況について、実際にあったことをたくさん聞けました。本当にありがとうございました。

まず最初に、南蒲生地区の震災・復興状況の説明を聞きました。頂いた南蒲生地区のあゆみを見ると、震災の時から今年の7月初めまで大きなことから小さなことまで事細かに書いてありました。それを読んだとき、被災者の方々はこんなに大変な思いをしてきたんだなと思い、とても悲しい気持ちになりました。

下水処理所では巨大津波の圧力で湾曲したポンプ室の外壁が破壊したのを見て、「津波でこんなにもなってしまうんだ。」と衝撃を受けました。見ているときは、いつ壁が崩れ落ちてくるのかハラハラしていました。

夜のバーベキューでは、お肉がおいしく、そして地域の方たちは私たちを温かく迎えてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

二日目の農業ボランティアでは、農業機械が 500 円玉以上の大きさの石を拾ってしまうと壊れてしまったり、使えなくなってしまうということで、石拾いをしました。私は石拾いや農業のお手伝いは初めてだったので新鮮でしたし、とても良い経験になりました。意外にも大きな石がたくさんあったのでびっくりしました。

私の親戚に震災の被災を受けた人がいます。その人たちから少しだけですが、当時の状況を聞いていたので多少知ってはいたつもりでした。しかし、今回改めて細かく、より深く震災・復興の状況を聞き、悲しい気持ちになり、泣きくなりました。でも被災者の方々が頑張っているのを見て、私はもっと頑張らないといけないと思いました。私は今回ボランティアで学んだことを他の人に伝え、そして将来に活かしていきたいと思います。

震災学習を終えて

2年2組 榊原 悠

この二日間で学べたことはかなりたくさんありますが、私は震災の被害にあった人たちが協力し合って今も生きていることに感動しました。津波で全てが流されてしまった中、私なら絶対に前へは進めないでしょう。しかし、津波、その後の地震の恐怖にも負けずに精一杯生きている人たちがいるというのはとてもすごいことだと思いますし、人と人が力を合わせて協力するというのを考えただけで、私は素直に素晴らしいと感じざるを得ません。

5年前の東日本大震災は東北地方にかつてないほどの被害をもたらしました。しかし、あの出来事によって、今までになかった他者との深い関わりや絆が生まれたのだと思います。この絆というものは、人と人とのつながりから生まれるものですから、これからも日本だけではなく世界中の人々に広がってほしいと思いました。私は、地震や津波の被害にあいながらも、一生懸命に生きている方々のような精神を持ちたいです。

二日間という短い期間でしたが、いろいろな経験をさせていただき、本当にありがとうございました。機会があれば、また行ってみたいと考えています。

5年目に思う気持ち

2年2組 畑中 貴光

全体を通じて、自分が知っている情報がどれだけ少ないものだったかを思い知らされた二日間でした。

事前学習のときに津波の映像を見ました。しかし、実際の場所に行くと、映像を見たときよりも鳥肌が立ちましたし、怖くなりました。とくに、南蒲生浄化センターの第三ポンプ室の壁を見たときには、驚きとともに恐怖を覚えました。10m 以上もの津波が持つ威力はもちろん弱いはずはありません。コンクリートの壁すらへこませるほどの威力を持つ津波の中では、いくら泳ぎの上手い人がいたとしても確実に助からないと思います。南蒲生町内会長の松岡さんは、津波から自分の身を守るためには、すぐに逃げるのが大切だとおっしゃっていました。へこんだ壁を見て改めて納得しましたし、災害時の教訓として忘れないようにしたいと思いました。

南蒲生には3mほどの津波が押し寄せました。津波によって家が流され、たとえ建物は残っても厚い泥におおわれてしまったといいます。水の威力は想像しているよりもはるかに大きいものなのかもしれません。

夕食のバーベキューでは、自分たちのために多くの食材を用意していただいたのに、全て食べられなくてすみませんでした。けれど、とてもおいしかったです。サプライズのビンゴがすごく楽しかったです。

農業ボランティアでお世話になった井土生産組合のみなさま、ボランティアという形で参加できたのがうれしかったです。あれだけの広い畑の中に、あのようなたくさんの石やごみがあることを考えると、すべて処理しつくすのに何年かかるか自分には予想できません。そのほんの一部ですが、協力できたことをうれしく思います。

今回のボランティアでお世話になった全てのみなさま、少しでもお役に立っていただければ幸いです。二日間、ありがとうございました。

震災ボランティアを終えて

2年4組 松田 峻弥

今回この震災ボランティアに参加して、改めて震災というものについてよく知ることができました。

埼玉県は海に面していないため、津波の被害についてテレビなどを通して知ることしかできず、あまり深く考えていませんでした。しかし、今回の体験を通して私達は津波の被害を受けていないからこそ、今回のボランティアのように被害にあった方々のために少しのことでもいいから何か協力することはとても大切だと思いました。また、テレビで見るのと実際に行ってみるのとでは、わかることが違うことにも気づきました。

例えば、私は津波避難タワーを見たのも、入るのも初めての経験でした。タワー内部には一時的に避難するしっかりとした部屋があることや、食料、発電機、ストーブ、簡易トイレなどが備わっていて驚きました。あの避難タワーがあることにより、周りに住んでいる方々は今までよりも安心して生活できるでしょう。ですが、タワーがあるといっても津波の被害を完全に防ぐことができないのが津波の恐ろしさだということを今回学びました。そして、被害にあった方々は、家族、友達、家など様々なものを失っているのにもかかわらず、しっかり前を向いて生活していることに感激しました。

もちろん、完全心の傷が消えるわけではないでしょう。しかし、地域の方々はともに支え合ってきたからこそ一丸となって復興に取り組んできました。そして、被災地だけではなく日本全体で復興を目指すことが大事だと思いました。

二日間という短い間でしたが、たくさんのことが、たくさんの事を学び、経験できてとてもよかったです。今回、芳賀さんをはじめ、私たちの受け入れに携わって頂いた皆様、本当にありがとうございました。

1年ぶりに宮城を訪ねて

3年1組 古谷 萌永

今回、1泊2日の宮城ボランティア旅行を経て、改めて東北の人たちの強さを実感しました。昨年の修学旅行の時も、事前学習として震災当時の動画を見ました。動画の中の被災者の方々の表情はどれも絶望に染まっていて、災害の悲惨さを表しているようでした。しかし、修学旅行でインタビューをした仙台放送の方々は極めて明るく、時には笑い交じりに当時の状況を話してくれました。仙台の中心部なので被害が少なかったとは思いますが、それでも私だったら笑って話せるような内容ではありませんでした。

そのインタビューから約1年。今回も同じく話を聞きましたが、やはり笑って話してくれました。心から笑っているわけではないと思うのですが、それでもすごいと思いました。そんな東北の人達の姿を見るたびに、「東北の人は強いなあ」と感じます。さらに今回は、今後の震災や津波による大きな被害を防ぐために何をしているかをたくさん聞くことができました。どれもよく考えられていて、ひたすら感心してしまいました。現在の研究では約400年間隔で今回と同規模の津波が襲ってきた地域であると知りました。次の大震災のためにここまでできるのは本当に凄い。これは寧ろ大都市こそやるべきことなのではないかとも思います。そういったものを沢山見て、確実に震災をバネにして立ち上がっているということを実感しました。

今回の旅行は、東北の方たちと沢山ふれあうことができ、東北の方たちの温かさを感じることができました。しきりに「また来て欲しい」と言ってくれて、絶対にまた行きたいと思いました。今回の旅行で、1年生・2年生もそれぞれ感じるものがあつたようで、何だか嬉しくなります。また機会があれば、こういったものに参加したいです。

震災ボランティアに参加して

3年2組 関口 玲菜

今回のボランティアで、少しでも皆さんの力になればと思い参加しました。そして現地で、多くのことを学びました。

1日目の町内会の皆様の話では、震災直後はとにかく不安だったこと、そして今のように暮らせるとは思っていなかったと仰っていました。修学旅行の時に聞き取り調査をさせていただいた事業所は、津波の直接的な被害はなかったので津波の恐ろしさを実感することはありませんでした。しかし、今回、実際

に小学校や家があった所を見学することによって、夏には多くの海水浴客がやってくる海は、家や家族、そして大切なものを奪ってしまう恐ろしい一面を持っているということを改めて実感しました。

テレビや新聞などで報道される映像を見ると、田畑や家を飲み込む津波は真っ黒い手のように見えたと言っていました。現場を見ていると、そのことが何となくわかった気がしました。埼玉県には海がないので、少し憧れる所がありましたが、このようなことを目のあたりにすると、とても心苦しかったです。

二日目の農作業体験のお手伝いでは、井上生産組合にお伺いし、石拾いをしました。単純な作業だと思っていたのですが、思っていた以上に大変でした。私は田植えの経験がありますが、それとは比べものにならないくらい石拾いは大変でした。小休憩の時にいただいたトマトは、とても甘くおいしかったです。また、私は昨年、J A仙台に伺ってお話を聞いたのですが、このときの話とつながり、なるほどと思うことがたくさんありました。

今回のボランティアで少しでもお役に立ったのであれば良かったです。自ら進んでまた、ボランティアをしたいと思います。本当にありがとうございました。

私が感じた「復興」

3年3組 和島 武尊

私はこのボランティアに参加する前、修学旅行に行った時のように、何も無い平坦な場所がなくなり、かさ上げ工事終了して家がたくさん建ち、ほとんど復興ができていたものだと思っていました。

テレビではもう、東日本大震災についての報道がほとんど流れなくなりました。そんな中で、私はもう東北も復興が終わりに近く、「いつもの」場所に戻ったのだと思い込んでいました。ですが、実際に行ってみるとそうではありませんでした。

そう感じたのは、かさ上げ工事をいろいろな場所で未だにしていたことでした。家は一軒もなく、重機やダンプが行きかう光景が印象的でした。それだけでなく、かさ上げ工事が未だに始まっていない“予定”の場所もあり、ボランティアなどの支援がもっと必要だと感じました。ですが、悪い事ばかりではありませんでした。

南蒲生の町内会の方は、三つの目標を掲げ、「えんの会」という地域の若い人たちがつくった団体と協力し、復興へと力を注いでいました。「世界中の方々に負けずにやらなきゃならない」、そのパワフルさに驚くと共に、こういう方達がいるからこそ、希望があり、努力し続けられるのだらうと思いました。

みちさきでは新しい時代の農業について教えていただきました。水耕栽培で

育てた野菜を安定した品質・量・価格で各地に届け、コンビニやスーパーに直接販売していました。身近な店に東北の商品が出回るのも復興が進んでいる証拠であり、工夫し、努力した結果がこういった形で現れるのは、自分にとっても嬉しく、やりがいのある仕事だと思いました。

同じ農業でも広大な土地を経営する井土生産組合は、米のほかにネギ・ミニトマトなど様々な野菜を作っていました。こちらでは今回のメインであるボランティアをしました。ボランティア内容は畑の石を拾う作業だったのですが、自分の顔以上の石を拾ったのが印象的でした。石を拾うだけでも大変だったのに、津波と一緒に流れて来た瓦礫などの撤去作業をしながら田畑の事を考えるのは大変だったと思います。だからこそ、素早く農作業に取り掛かるためにボランティアが必要なのだと改めて感じました。

最初は、まだまだ復興が進んでいないと感じていましたが、町内会の活動、農業経営の工夫、荒浜小学校、浄化センターの壁、避難タワーなど復興への一歩とあの日を風化させないための遺構の保存、教訓の伝承など未来を見据えた様々な取り組みが見えた震災学習だったと思います。

最後に、こんなにたくさんの貴重な体験や学習の企画から運営をして下さった芳賀さん、本当にありがとうございました。

再び宮城に来て

3年4組 関口 瑞希

1年前、修学旅行で宮城に来たよりも現地の方々に変化を感じました。大きく変化を感じたのは、話すときの雰囲気明るいということです。宮城全体を回ったわけでも、昨年南蒲生に来たわけでもありませんが、今回は「これからこうしていきたい」、そして、「今後の予定」というお話が多かったと思いました。被災された方々の心も少しずつ変わっていることを強く感じました。

お話を聞いていると、今回の津波がいかに現地の方々にとっても経験のない大きなものだということを改めて知ることができました。南蒲生集会所や松岡さんのご自宅に貼ってある津波の高さを示すプレートを見ると、今までとは全く違う何倍もの規模の津波が来たことに動揺を隠せずにいたのだろうと思いました。特に印象的だったのが浄化センターの壁のへこみようでした。もし、この津波に巻き込まれてしまったら、助からないだろうと思いました。そして驚きと恐ろしさが同時に胸にこみ上げてくるという何ともいえない不思議な感じになりました。ですが、震災を経て同じことを繰り返さないために、現地ではかさ上げ工事や津波避難タワーを建設して、次にやってくるであろう津波への対策をしていました。また、津波の恐ろしさを忘れないために、当時の津波の高さを示すプレートが建物に取りつけられているのを見て、「南蒲生で得た情

報を周りの人に発信しなければ」と思いました。

今回、さまざまな面で復興が進んでいることを知りましたが、とくに新しい農業を目指す（株）みちさきと井土生産組合で見学・体験できたのは、とてもよい経験になりました。農業経営において、人件費をいかに抑えるか、機械を使ってどのように作業効率を上げるか、どんな商品を作れば売れるのかなど、さまざまな工夫がなされていました。震災を通じて、他とは違う方法や工夫をすることによって農業も少しずつ復興していること知りました。ここでの見学・体験を機に、農業について目を向けてみようと思いました。

この震災ボランティアで得た情報をいろいろな人に発信し、自分にできることがあれば積極的に行動したいと思いました。現地の方々は、何もできない私たちに対して至るところであたたかく迎えてくれました。ですから、そのことに感謝しつつ、また感謝の意を込めて震災と宮城の方に今よりももっと関わっていきたいです。ここで知ったことを、今後来ると予測されている大きな地震に備えて活かしたいと思いました。

二つのボランティアに参加して

3年4組 中島 琉華

一泊二日という短い時間でしたが、今回の震災ボランティアを通じて、震災が起きてから5年経った被災者の今の気持ちや、仙台の方々が復興へと前向きに頑張っていることがわかりました。

私は、今夏、石巻のボランティアにも参加しました。石巻のボランティアでは、お祭りのお手伝いとたくさんの子供が亡くなった大川小学校を見学し、現地の方々のお話を聞きました。

二つのボランティアに参加して、一年前の修学旅行で聞き取り調査をした時より変わっていたことがありました。それは一人ひとりが震災前よりもっといい町づくりをしたい、また前のように、にぎやかで楽しいお祭りを取り戻したいと、みんなが力を合わせてしっかり前を向いて頑張っていることです。もちろん東北の人達だけではなく、日本中、そして世界中の人たちが復興を願い、今も力を合わせていることが確実に力になっていることを感じました。そして、自分でも現地に行って震災の大きな爪跡を見たり被災者の方から当時のお話を聞いたりすることによって、テレビやニュースから感じること以上に地震や津波の恐ろしさを実感しました。

今回のボランティアだけでなく、今後も私にできることをしていきたいです。どんなに小さなことでも、それが一つにまともれば大きな復興への一歩になります。今回の東北ボランティアはとても貴重な体験になりました。私たちを受け入れて下さった東北の皆様、本当にありがとうございました。

二度目の震災学習

3年4組 三戸 朱理

今回の東北ボランティアは、修学旅行で行った震災学習とは違ったことをお聞きすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。修学旅行では短時間ゆえに東北の方々と深い人間関係が築くことができませんでした。しかし、今回は1泊2日でたくさんお話を聞くことができると共に、色々な所を見学することにより地域の方々と深い人間関係を築くことができたと思います。この事は私にとってとてもかけがえのない経験になりました。ありがとうございました。

南蒲生町内会長の松岡さんのお話では、当時松岡さんが体験した地震や津波の被害や恐ろしさをお聞きする事ができました。もし私が家族と連絡がつかない、自分の知り合いが被害にあってしまったことなどを考えると冷静ではいられないと思います。こんなにも多くの恐怖を一気に経験してもなお復興への前向きな姿勢、さらに、私たちに震災の事を伝えようとしてくれることに尊敬と感謝をすると共に、私もこちらでお聞きした話を家族や友人に話し、広めたいと思います。

また震災学習だけでなく、見学やボランティアをさせて頂いたみちさき、南蒲生浄化センター、井土生産組合では様々なことを学びました。みちさきでは、野菜の栽培方法のほか、障がいを持っている方の就職先となっている事を知りました。また生で食べられるハウレン草も食べさせて頂きました。ハウレン草を生で食べるのは初めてだったのですが、ほんのり甘くてとても美味しかったです。浄化センターでは地震や津波のことはもちろん、浄化センターに大きな爪痕を残したへこんだ壁や当時のまま残っている建物はとても衝撃的でした。井土生産組合ではボランティアという形で畑にある小石やゴミ拾いのお手伝いをさせて頂きました。「なぜ畑のゴミ拾い？」と不思議に思ったのですが、この畑は、もともと田んぼであり、よそから土を運び入れて整地したところです。畑に石やゴミが落ちていると機械での作業がやりにくいとお聞きして、何でも機械でできるわけではないことを知りました。そのことを聞いたためか、任された仕事を一生懸命やる事ができました。頂いたトマトもとても美味しかったです。

今回の震災学習ボランティアを通して、人とのつながりの大切さ、地震や津波の恐ろしさなどたくさんを知ることができました。どれも貴重な体験で、良い経験になりました。もし、これからボランティアなどに参加できる機会があるなら、簡単なものから友人や家族を誘って参加したいと思います。今回は私たちを受け入れて下さりありがとうございました。

ボランティアを終えて

3年5組 嶋田 香織

今回のボランティアを通して、私は改めて震災の恐ろしさと地域の人々の温かさを感じました。今回お世話になった方々全員がやさしかったのを覚えています。また、「こんな大きな津波が来るとは思わなかった」という言葉がとても心に残りました。地元の方でも想像ができなかった震災の恐ろしさを実際に感じたのは、下水処理場の変形した壁、荒浜小学校の校舎です。津波でまさかこんなになってしまうとは思っていなかったのも、とても衝撃的でした。これを当時見ていた人達はどんな想いをし、何を考えていたのか分かりませんが、きつとつらく、悲しかったのではないかと私は思っています。

埼玉は海がないので、私は津波の恐さをきちんと理解できていませんでした。でも、実際に見た景色はテレビの画面越しで見るものとは比べものにならないくらい、つらいものでした。修学旅行の時とは違う景色や違う方々の取り組みを知ったり、体験したりすることができました。町も少し明るくなったように感じました。道や建物もきれいになっていて、「ああ、少しずつだけど復興しているんだな」と思いました。私は今回見たこと、感じたことを忘れずに色々な所でいかしていきたいと思いました。

良い意味で衝撃的だった初ボランティア

3年5組 渡辺 美帆

私が2年生の時に修学旅行でお話を聞いたときは、復興も途中で、まだまだこれからという感じでしたが、今回はお会いした方々がみな笑顔で話せるようになっていました。1年間、いろいろな人が協力したことが復興を加速させたのではないかと思います。

更に、復興もただ元通りにするだけではなく、震災の経験を活かして津波の被害を最小限にするための工夫が至る所に施されていること知りました。そして、震災前より良い町をつくるという強い気持ちをもって復興に取り組んでいることも知りました。

二日目の農業ボランティアでは、畑の小石によりトラクターが壊れてしまうということで、私達は500円玉以上の小石を拾う作業をしました。震災後、田んぼから畑に転換するために他所から土をもらってきたそうですが、そんな急遽入れた土でもすくすく育つ作物を見て、その姿を被災者の方々と重ねて見てしまいました。

私は今回、人生初めてボランティアに参加して、ボランティアというのはどんなに些細なことでも、それが相手の役に立てばこちらもやりきったという達成感を得られるということに気づきました。そして、ボランティアの団体がこれから増えていけば、世の中がもっと良くなるのではないかともしました。今後、積極的にボランティア活動に参加していきたいです。今回、何もできない私達を受け入れていただいた仙台の皆様、本当にありがとうございました。

人を助けたいという気持ちにさせてくれた震災ボランティア

3年6組 今関 泰隆

震災ボランティアを通じて、とくに心に残ったことがいくつかあります。

1日目は色々な施設にお伺いして見学したり、お話を聞いたりしました。中でも一番衝撃を受け、心に残ったのは、南蒲生浄化センターのポンプ室の建物です。津波に押されたコンクリートの壁が内側に約 50cm へこんでいると聞いた時、あの壁がへこむなら家や車まで巻き込んで跡形もなく無くなってしまうのは当然だと思いました。また、南蒲生町内会の方のお話を伺いましたが、被災者の方の生の声を直接聞いたのは初めてだったので良かったです。これからは南蒲生の復興のためにがんばって欲しいと思いましたし、私も何か協力したいと思いました。

2日目は、バスを少し走らせて田畑が一面に広がる「井土」という地域に向かいました。農事組合法人井土生産組合です。井土は仙台市中心部から見て南東に位置しており、江戸時代から仙台藩の「台所」として重要な役割を果たしてきた地域です。

みなさんのお話の中で、「この農地も瓦礫で無惨な状況でしたが、多くの方の支援により元に戻りました。」ということを知り、近所の方々、JAせんだい、そして数多くのボランティアの方々の協力があったからこそここまで戻ったことを知りました。また、「これからは、今までお世話になった方々へ恩返ししていきたい。」ともおっしゃっていました。今回、私たちはねぎ畑の小石を拾うお手伝いをさせていただきました。しかし、私も含めて多くの参加者は畑作業をするのが初めてです。何もできない私たちをわざわざ受け入れてくれたのは、今までの「恩返し」の意味もあるのかなと思いました。井土生産組合の方々に感謝するとともに、私にできることがあればこれからはボランティアに参加したいと強く思いました。

最後になりましたが、今回、貴重な体験をさせていただきました仙台のみなさん、本当にありがとうございました。

人とのつながり

3年6組 小川 ゆうか

今回のボランティア活動を通して、地域による被害の差や復興の仕方の違い、そして地域の人々の思いの重さを知ることができました。

一日目は、仙台市東部地域に住んでいる南蒲生の地域の方々からさまざまなお話をうかがいました。中でも印象に残っているのは、津波の予想ができていなかったことです。大津波が来ることを知ったとき、自宅にとりのこされた家族を迎えに行行って亡くなってしまった方がいたことに心が痛くなりました。

しかし、南蒲生の方々は震災と真正面から向き合ってきました。今までよりも良い町をつくることに情熱を注ぐ人々の強さを知りました。そして、人とのつながりの大切さや、人を支えられるのは人だけであることに気づくことができました。夜は南蒲生の町内の方々が交流会を開いてくださり、バーベキュー、仙台名物の枝豆や手作りのずんだ餅などたくさんの料理をおいしくいただきました。

二日目は、井戸生産組合を訪問しました。そこはとても海に近い場所で、震災時は、津波の大きな被害を受けました。震災後、田んぼに土を入れたネギ畑には、大小さまざまな石がありました。私たちはこの石拾いをお手伝いさせていただきました。潮の香りが畑の土から感じられ、多くの石があるこの畑で作物は育っていました。東北は人だけではなく作物も強いのだなと思いました。

私は今回の震災ボランティアで、「逃げる」とこの大切さを学びました。私が暮らす関東地方でも、今後、大地震が予想されています。そのとき、この「逃げる」という教訓を生かしていきたいです。そして、復興時は人とのつながりや支えあいを大切に、南蒲生の方々のように前の場所よりもさらに素晴らしい場所にしていけるよう頑張っていきたいと思います。

初めてのボランティアで考えたこと

3年6組 栗澤 将崇

1日目、せんだい3.11メモリアル交流館に行き、現地の人々が書いた手書きマップや手作りのジオラマを見学しました。私はそこで、ジオラマや手書きマップは「どうして作られたのだろうか？」と思いました。きっと現地の方々は、このジオラマのように元の地域に戻ってほしい。そんな気持ちを込めて作られたのではないだろうかと思いました。そして、南蒲生町内会の方々の話を聞き、心に残った話があります。それは「どうして地域に残る人とほかの地域に残る

人がいるのか？」ということでした。私は自分の生まれ育った土地を捨てるなんてとても考えられません。でも話を聞いていくうちに、ここよりもっと安全な場所に行きたいと考える人がいてもおかしくないということがわかりました。テレビではこんな話はありませんでした。私にとって現地の方々の生の声を聞くことは、震災や復興について「何でだろう？」と考えるきっかけになりました。

二日目、井上生産組合のねぎ畑で小石を拾う作業をさせていただきました。畑にはまだ大きい石が至る所に落ちていました。作業中、「なぜ農家の方々は私たち高校生に作業させてくれたのだろうか？」という気持ちになりました。畑仕事は、素人の私たちよりもプロの方にやってもらった方が早いし、確実です。きっと私たち若い世代に震災や復興について語り継いでほしい、忘れないでほしいという思いがあったのではないのでしょうか。また、「震災のことなんてもう口にしたくもない！」と思っていた方もいらっしゃるかもしれません。それでも私達、高校生を受け入れてくれたのは、多くの人に何があったのかを知ってもらい、二度と悲劇が起きないようにしたいという思いもあったのではないのでしょうか。

私は今回のボランティアを通じて、震災のみならず東北の方々の思いについて自分なりに考える機会になったことが一番の成果だったと思います。今後、ボランティアの機会があればぜひ行きたいと思います。

今回の東北ボランティアを通じて

3年6組 小林 光希

1日目の見学では、私としてはやはり南蒲生浄化センターの津波によってへこんでしまった壁がとても印象に残っています。私が考えていた以上に被害が大きく、予想をはるかに超えていました。事前学習の中で YouTube の津波の映像も見ました。津波の威力は大きく、様々なものがまるでおもちゃのように流されていました。映像でも津波の恐ろしさを知ることができましたが、やはり現地に行って実物を見ると、その時の恐怖や緊迫感に違いをはっきりと感じました。

津波避難タワーの見学では、まさかタワー内部に避難者用の部屋まであるとは思いませんでした。寒さ対策がなされていて、非常食もしっかり用意されており、今回の経験が活かされていると感じました。

2日目のボランティア先は、私が昨年訪れた井土生産組合でした。昨年よりも機械が増えていて、事業が順調に進んでいることを感じました。今回、私たちはねぎ畑の石拾いをさせていただきました。予想を上回る石の多さと石の大きさに驚かされると同時に、組合の方々への復興への凄まじい執念と努力に感

激しました。

私は今回の震災ボランティアを通じて、津波の恐ろしさを再確認するとともに、被災者の方の思いは一人ひとり違っても、絶望せずに頑張っている姿を垣間見ることができ、感動しました。これからは、困っている方のために私も積極的に行動したいと考えるようになりました。仙台の皆様、私たちを受け入れていただき、本当にありがとうございました。

短い間の多大な経験

3年6組 嵯峨 自由

今回参加したボランティアでは、沢山のことを経験しました。一日目は何箇所か見学させて頂き、夜には南蒲生町内会の方々とバーベキューをして楽しみました。二日目は農作業のお手伝いをし、そこでの話を聞くこともできました。

一日目で見学した場所全てで様々な感情が湧き上がってきました。自分が知ったつもりでいた津波の凄惨性、その恐ろしさは実際に体験していなければ全て分かることはできませんが、少なからず想像出来る確かな恐怖。生活するにあたって絶対に必要な水があらゆるものを飲みこみ、そして簡単に壊すことが出来ることを浄化センターの凹んだポンプ室の壁を見て改めて知ることが出来ました。

バスでの移動中、主に海岸沿いの道路を走っていました。そこは、ほぼ全てが田んぼと盛り土でかさ上げされた土地だけがある寂しい景色が広がっていました。建物が全くないというわけではありませんが、あっても所々に小さな建物があるだけ。今後、津波から仙台の町を守るとされる3本の堤防の一つ、仙台東部道路を境に建物の数に大きな差がある現実を見て、とてもせつない気持ちになりました。

二日目の農作業のお手伝いでは、いくつか気づいたことがありました。基本的には先生や現地の方が話していたことだと思いますが書きたいと思います。一つ目は作業中に気づいたことです。今回の作業では、畑の石だけでなくゴミも一緒に拾いました。ペットボトルや空き缶、お菓子の小袋ならわかりますが、今回拾った中には何と靴の一部があったのです。見つけたときはとても驚きました。作業後に先生が話していましたが、津波に流された土地を畑として使うために土を入れ換えたと聞き、納得しました。今回作業して私も多少なりとも疲れましたが、これよりも深刻な状態だった時の苦労はとても想像出来ません。

この二日間のボランティアを通して、私の中の意識が大きく変わりました。知ったつもりでいた現地の被害を自分の目で再確認し、改めて事の凄さに驚かされ、体験した沢山のことをこれから何かに活かせないかと考えさせられました。短い間でしたが多大な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

震災ボランティアで学んだこと

3年6組 菅沼 柊平

今回の震災ボランティアで、一番衝撃を受けたのは下水処理場です。津波の被害を受けたポンプ室のへこんだ壁を見せていただき、自分が何となく想像していた津波の破壊力よりも実際にははるかに大きかったことを知り、とても驚きました。そして町内会の方々が1日目の夜に用意してくれたバーベキューはとてもおいしく、町内会の方々と交流ができたのでよかったです。

二日目の農業ボランティアでの石拾いでは、思っていた以上にたくさんの石を拾うことができました。震災からもう5年もたっているのに、畑にはまだとてもたくさんの石が落ちているということにはとても驚きました。

私がこの震災ボランティアに行く前は、ニュースで見たり聞いたりした事や、修学旅行の震災学習で行った場所しか知りませんでした。しかし、実際にもの凄いの被害を受けた場所を見て、そして現地の方々のお話をうかがうことで、今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。同時に被害がとても大きすぎてショックを受けましたが、本当のことを知ることができたのは大きな収穫でした。また、下水処理場の津波で破壊された壁、そして荒浜地区の基礎のみ残された住宅跡地を見ることで、改めて自然の怖さを知ることができました。

今回の震災ボランティアでは、いろいろなものを見て、聞いて、知ることができたので参加して本当によかったです。仙台の皆様、本当にありがとうございました。

人生で初めてのボランティア

3年6組 角田 梨奈

私はボランティアというものに行ったことがなく、行きたいとは思っていましたがなかなか機会も縁もなかったのが、今回声をかけてもらい参加を決意しました。

私は昨年の修学旅行では仙台市ガス局へ行きました。ですがそこは津波の直接的な被害にあった地区ではなかったため、被害の様子を目にすることはありませんでした。しかし、今回は1日目にその機会を得ました。南蒲生地区は、かさ上げ道路の計画変更により元々住んでいた所に住めるようになったと聞きました。私だったら「また家に帰って生活できる」と思ったでしょう。しかし、必ずしも喜んだ人ばかりではなく、津波のトラウマに苦しむ人の中には南蒲生

地区に住みたくない人もいることを知り、とても驚きました。

浄化センターで見た第三ポンプ場は、津波によって巨大な壁が破壊され、今もなお痛々しく残っていました。ここが動画で見たあの大きな津波のしぶきを上げていた場所だと先生に言われるまで分かりませんでした。壁が 50cm もへこんでしまうと考えると、自然の脅威のすさまじさを実感することができました。やはり、自分の目で見て、現地の方のお話を聞くことにより、初めて津波の恐ろしさが分かることに気づきました。そして、津波の恐ろしさを語り継いで風化させてはいけないことを強く感じました。荒浜小学校のように震災遺構として保存することはもちろん、映像や書物で残すことも同時に大事だと思います。

二日目の朝、南蒲生町内を散歩しました。1日目はゆっくりと周辺を見ることができませんでしたが、よく見てみると家の基礎のコンクリートや柵だけが残っている所が多く見られました。5年経っても、やはり元通りになっていないことを改めて知りました。そしてその後、今回の一番大きい目的であるボランティアをしました。私は「何かの収穫をするのかな？」と勘違いをしていましたが、ネギ畑にある大きな石の除去をしました。まさか5年経った今でも残っているとは…。作業していると、化石でも掘っているような感覚で楽しく、2時間の作業時間があっという間に過ぎました。最初は正直なところあまり乗り気ではありませんでしたが、今自分達のできることなのだと思ったらやる気が出てきました。

今回の震災ボランティアを通じて、現地に行かないと分からないことが世の中にはたくさんあることを知りました。そして、このような体験ができたのも人と人との繋がりがなかったら出来なかったし、話を聞くことも出来なかったと思います。話をしていただいた方々、ボランティアをさせていただいた井土生産組合様、そして今回の企画をコーディネートしていただいた芳賀様、誘ってくれた友人。本当にありがとうございました。また行きたいです。

どんな大人になるのか

3年6組 渡辺 伸

私は今回ボランティアに参加して、再度、震災の爪痕を自分の目で見る事ができました。同時に、被災者の方々からさまざまなお話を聞かせていただきました。私は去年の修学旅行の震災学習で南三陸町に行きました。南三陸と南蒲生地区は離れていますが、どちらも大きな被害を受けており、津波被害の大きさを改めて実感することができました。そして、私は震災の怖さを理解していたようでまだまだ理解していないということに気づきました。ですから、今回のボランティアで教わったことを忘れないようにしたいです。

一日目の初めに行ったせんだい 3.11 メモリアル交流館では、皆さんが作ったマップやジオラマを見て、被災前のにぎやかな様子を知ると同時に被害の大きさを知りました。

南蒲生集会所では、町内会の皆様が当時の状況や復興のあゆみについて話して下さいました。その中で私は「危険だと感じたらまずはとにかく逃げろ」という言葉が印象に残っています。とにかく自分の命がなければどうしようもありません。しかし、自分の命だけではなく身近な人のことも考えられるようになりたいと思いました。

みちさきは、株式会社の形態をとって農業を行っています。一軒一軒の農家が再び農業にとりくむのは難しい状況の中で、会社組織にすることで見事に復興をとげていました。そして、みちさきでは障がいをもつ方も働いており、震災をきっかけにしてうまくいっているところを見ることができ嬉しく感じました。

浄化センターでは、津波で破壊された建物を見て、自分の中での津波の強さのイメージができ、津波の威力がいかに強いものなのか身をもって知りました。

私たちの住む埼玉には海はありませんが土砂崩れや川の氾濫はよく起こりますので、同じような状態になる可能性は少なからずあります。ですから、常に災害を意識して生活をしなければならないと強く感じました。

二日目は井土生産組合のネギ畑で石拾いをしました。震災から5年も経っていますが、まだ大きな石が落ちていて驚きました。ひたすら石拾いをしているととても疲れましたが、仙台の田園風景を見たり、話を聞いたりすることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

私は今回のボランティアに参加することができてよかったです。貴重なお話や体験をさせていただきありがとうございました。

東日本大震災ボランティアに参加して

引率教員代表 鯉沼 詩織

3.11 後、これが私の4度目の東北の訪問である。自分で申し込んで参加したボランティア、修学旅行の下見と本番、そして今回のボランティア。訪問するたびに、さまざまな角度で、東北の方から震災に関するお話を伺うこともできた。震災の話は何度聞いても心に重くのしかかってくる。きっと話している方々の方の昇華できない想いが伝わってくるからだろう。

しかし、今回の訪問で感じたのは、さまざまな想いを抱えながらも、東北の方々は復興に向けて着実に歩んでいるということであった。地区によって方法に違いはあるものの、誠意を持って自分たちの街を作っていこうという姿勢を感じた。元通りにするのではなく、さらに良くしていくという気持ちが伝わってきた。また「防災」だけでなく、被害を最小限にしようという「減災」の観点から対策を進めていたのも印象的であった。

震災から4年半経ったが、東日本大震災に向き合い続けていられることは貴重なことである。「伝える」ことを仕事としている以上、この経験を伝えていかなければいけない。それがこの震災を風化させないために私ができることなのだろう。

最後にコーディネータを引き受けて頂いた芳賀正様、今回の訪問を快く受け入れて下さった宮城野区南蒲生町内会の皆様、株式会社みちさき様、南蒲生浄化センター様、仙台市危機管理室防災計画課の皆様、井戸生産組合様、仙台市宮城野区役所様に心よりお礼申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

東日本大震災ボランティア報告集

発行人：埼玉県鶴ヶ島清風高等学校長 根本 文昭

編集人：加藤 一郎

発行日：平成28年9月30日

表紙・口絵印刷：ラクスル株式会社

文字入力：大山 千奈・牧野 未結